

ふるさと教育 取組事例

学校名	飯南町立頓原中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3年	総合的な 学習の時間	個人研究 これが私の生きる道～最終章～	・ 町内公民館 ・ 地域住民 ・ 役場 ・ 社会福祉協議会 ・ 中山間地域研究センター ・ 東京学生エスコート
ねらい		・ 多様な人と協働しながら自分の価値観に向き合い、ライフスタイルについて考えことで、飯南町が将来帰って来たい町になるためには何が必要か考える。	
<p>1 取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の方との座談会、公民館からの講話、東京学生エスコートの大学生との相談を通して、個人研究のテーマを設定し、企画書を作成する。 ・ アンケートやインタビューを行いながら、現状分析を行い、企画書の確認をする。 ・ 企画書に基づき、アクションプランを作成し、アクションを起こす。 ・ アクションを振り返り、ネクストアクションを考え、実行する。 ・ プレゼンテーションを作成する。 ・ 個人研修の内容を発表する。 <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。 (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちが考える「ふるさとの現状・課題・魅力」を様々な人に伝える場を設定した。また、アクションを起こす時には、場所や機会を提供していただいたことで、地域に密着した活動を展開することができ、ふるさとへの愛着を深めることにつながった。個人研究の最終発表会では、たくさんの方々に発表を聞いてもらい、研究についてのアドバイスや感想をいただき、今後もふるさとについて考えていこうという意欲を高めることができた。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) トークフォークダンスを設定したり、地域の人にインタビューやアンケートをしたりして、飯南町の現状や課題について深く考え、研究テーマを決定した。直接、地域の方と話し、ふるさとの様子を知ることで研究に対しての意欲を高めることができた。また、東京学生エスコートの大学生からもらったアドバイスと地域の方から伺った話とを比較、検証しながら、課題探求の方法や目的について考えることができた。 (2) 研究を進めるうえで、公民館や地域の企業、住民の方々に話を聞きに行ったり、公民館行事と共催したりすることで、幅広い世代の方々と接する機会がもて、視野の広がりを得ることができた。また、地域のひと、もの、ことを活かしながら研究を進めることでふるさとへの理解が深まった。 (3) 研究した内容を工夫して、分かりやすくスライドにまとめ、身振り手振りを交えながら、堂々と発表することができた。地域の多くの方に参観していただいたことで、聴衆を意識した発表の仕方について考え、工夫することができた。 <p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等） (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イベントを開催したり、地域の活動に参加したりして多くの方と触れ合いながら研究した結果、改めてふるさとの人の温かさや優しさ、地域行事の楽しさを感じ、ふるさとへの愛着を深めることにつながった。 			

※取組の様子がわかるような画像を数枚貼り付け、ファイルのデータサイズ 500kb 以下となるようにしてください。

※この事例をしまねのふるさと教育ホームページに掲載する予定のため、画像は必ず承諾を得たものにしてください。

- ・自分でイベントを開催してみて、人と人とのつながりの大切さを感じ、今後も地域の行事を盛り上げるために、積極的に地域活動に参加していこうと感じた生徒が多かった。
- ・ふるさとの課題について考え、自分たちで課題改善ができないかと試行錯誤した結果、地域の様々な機関とつながりながら、活動していくことの大切さに多くの生徒が気づいた。

(学力育成の視点から)

- ・直接、地域の方と話したり、地域行事に参加したりすることでふるさとの魅力を再認識でき、ふるさとに対する理解が深まった。
- ・聴衆を意識した分かりやすい発表を目指したことで表現力が高まったり、質問や感想に対する返答を考えることで思考力、判断力の育成につながったりした。

4 課題や今後の展望

- ・公民館や地域施設などの施設を活用したり、協力を求めたりして、個人研究を行う生徒が多く、研究内容が充実したものになった。住民のためのくつろぎスペースを設置する生徒や気軽に買い物できるショップの開催を地域の施設を活用して行う生徒もあり、今ある施設の積極的活用が地域の活性化につながることを感じた。また、今年度は東京学生エスコートの大学生と相談しながら研究を進め、研究の方向性や方法に新しい視点を見いだす一助となった。今後も外部との連携を強め、外部アドバイザーや地域の方との協同研究を行うことで、生徒の視野が広がり、積極的なアクションが行えるように計画していきたいと考える。

